

石垣市グッジョブ連携協議会

～ 中学生による店頭PRと魚食普及 ～

若者の魚食離れに対して地元水産物に目を向けるきっかけづくりとして、石垣市グッジョブ連携協議会は、石垣市の中学1年生14人を対象に、八重山地方の地元水産物をPRするための、店頭POP広告作成のワークショップを開いた。

このワークショップでは、地域おこし協力隊兼東京大学客員研究員の渡邊義弘氏を講師として、各グループごとに「消費者が魚を買いたくなる」POPを考え、キャッチコピーやデザイン案を発表した。評価は相互評価と講師の加点により、ワークショップ内で最も優秀な作品を1点決定する。選出された作品は、実際に地元スーパーの鮮魚売り場で約1か月間使用されることとされ、小学生時代にジョブシャドウイングを経験している生徒たちにも難易度の上だった課題だ。販促POPは消費者の購入意思決定を左右するだけに、中学生の視点からも、視覚的な効果のあるデザインやコピーづくりに生徒たちは真剣な姿勢で取り組んだ。

選出されたPOPが掲示されたのは、地域密着型の小売店舗「サンエー石垣シティ」。地元の方が日々訪れて食料品を購入する、多くの人の目に触れるスーパーマーケット内で、家庭の様々な料理に美味しく調理できることを伝え、地元の水産物を店頭PRした。本ワークショップを終えた生徒からは、「水産物に注目したことは今回が初めてだったけど、今後はスーパーの鮮魚売り場などを通して、地元水産物に注目してみたい。」などの声が聞かれた。

